

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320037

研究課題名（和文）真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究 金剛寺本を中心に

研究課題名（英文）The Interdisciplinary Investigation and Research into the Classical Books handed down in the Temples of the Shingon Esoteric Buddhism Centering on the Books bequeathed to the Kongoji Temple

研究代表者

後藤 昭雄（GOTO AKIO）

成城大学・文芸学部・教授

研究者番号：80022284

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 日本文学

キーワード：金剛寺 寺院資料 聖教

1. 研究計画の概要

本研究は大阪府河内長野市の真言宗寺院、天野山金剛寺所蔵の聖教について全体的な調査研究を行うことを目的とするものである（一切経についての調査整理は完了している）。具体的には以下のことを目的とする。

(1) 全体的調査

金剛寺所蔵聖教全部の略目録（いわゆる棒目録）の作成

そのための未整理聖教の整理調査

(2) 貴重典籍の精査および発掘

(3) 聖教識語集成の作成準備

(4) 研究成果の公開

研究会の開催および報告書の刊行

2. 研究の進捗状況

1で述べた区分に即して分けて述べるが、全体的なこととして、本研究の調査研究の方法について述べておく。毎月一度（原則として一日）金剛寺にでかけて調査整理をおこなっている。その際は代表・分担・連携研究者のほか、研究協力者、調査協力者の援助を受けており、多少の出入りはあるが、大体十数名が作業に従事している。

(1) 全体的調査

略目録の作成

金剛寺聖教の全体を把握するため、また、(2)、(3)の基礎をなすものとして、本研究の柱の一つと位置づけている。一切経と異なり、基準となる目録も存在せず、かつ元の本の形をとどめるものよりは断簡として存在するものが多量であるため、書名を明らかにできないものも多い。

それについては冒頭の十字前後の文字を

記録しておくという方法を取っている。このようにして、現在までに 46 函の目録を作成し、後記の報告書に掲載した。

未整理聖教の整理調査

これまで未整理のままに土蔵におかれていた資料群のうち、聖教と判断されるものを選別し、分類番号を付して封筒に入れる作業は完了した。16 函分となった。貴重な資料は後述の(2)の作業で取り上げることとしたが、他は 2 函について試験的に目録を作成したのみである。

(2) 貴重典籍の精査および発掘

まず一つには、真言宗寺院である金剛寺に貴重な浄土教経典・聖教が少なからず見出されたことである。それらについての研究成果は連携研究者である落合俊典・金水敏らによって公にされている。中世の音楽資料もある程度所蔵されていることが明らかになり、研究会で報告が行われたが、なお精査が続けられている。

ほかにも儒教の経書の目録、寺院縁起についても研究を行い、成果を公表し、また継続して研究を進めている。

(3) 聖教識語集成の作成準備

未詳の断簡類は揃えて、本の形を保っているもの、かつ近世以前の書写であるものについて、詳細な調査カードを作成していている。現在の時点で、約 2000 枚である。ただし、これを電子情報として入力する作業はあまり進んでいない。

(4) 研究成果の公開
研究会の開催

2007年度と2009年度は、大阪大学において研究成果発表のための研究会を開催した。以下の内容である。

- ・金剛寺聖教調査研究のこれまで
- ・学頭の書写活動から見た金剛寺教学の変遷
- ・金剛寺聖教中の音楽資料について
- ・天野山金剛寺聖教中の刊本概観

報告書の刊行

2008年度と2009年度は中間報告書を刊行した(後掲)。2008年度分は論文、資料紹介、目録2種からなる。236ページ。2009年度分は目録のみで、93ページ。

3. 現在までの達成度

<区分>

おおむね順調に進展している。

上記の研究計画の分類に即していえば、(1)の全体的調査のうち、聖教全部の略目録の作成は期間中に全部が終わる目途がついている。しかし、未整理聖教の調査はあとに残さざるをえない。(2)貴重典籍の精査は前述のとおりで、最終年度である今年度刊行予定の報告書にその成果を発表できる予定である。(3)識語集成の作成については、カードの作成は順調に進んでいるが、入力作業はおくれている。(4)研究成果の公開は上記のとおりで、順調であるといえよう。

4. 今後の研究の推進方策

上記の3で述べた、遅れている入力作業を推進させることがまず第一の課題である。そのほかはそれぞれの作業を進めて、年度末にその成果を盛り込んだ最終報告書を刊行することになる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

後藤昭雄 「『全経大意』と藤原頼長の学問」(『成城国文学論集』)33輯 査読無 2010年 P125-147

[学会発表](計8件)

赤尾栄慶 「養鷗徹定と古写経」 口訣学会第39回全国学会 2009年2月18日 韓国技術教育大学校

後藤昭雄 「『全経大意』について」 和漢比較文学会平成20年度大会 2008年9月29日 東北大学

[図書](計2件)

後藤昭雄編『真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究 金剛寺本を中心に 研究成果中間報告書(平成21年度)』成城大学2010年 93ページ。

後藤昭雄編『真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究 金剛寺本を中心に 研究成果中間報告書(平成20年度)』成城大学2009年 236ページ。